ニッケイ新聞
JORNAL NIKKEY SHIMBUN
DIRETOR PRESIDENTE
RAUL M. TAKAKI
JORNALISTA RESPONSÁVEL
Aldo Shiguti , MTb 36.982
Rua da Glória, 332 - Liberdade
CEP 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
Tel (11) 3340-6060 | www.nikkeyshimbun.jp

パシェコ上院議長 モラエス判事罷免請求を却下

「民主主義の退化につながる」
大統領は議長に恨み節

ロドリゴ・パシェコ上院議長（民主党・DEM）は25日、ボルソナロ大統領が20日に提出した最高裁のアレッシャンドレ・デ・モラエス判事に対する罷免請求を却下する判断を行った。25、26日付伯字紙、サイトが報じている。

なおも続く最高裁との対立

モラエス判事に対する罷免請求は、熱心な大統領支持者であるブラジル労働党党首のロベルト・ジェフェルソン氏が、最高裁を銃で威嚇する動画を拡散するなど13の罪状で逮捕されたことに端を発している。大統領はジェフェルソン氏のほかにも、自身の息子たちを含む多くの支持者たちがモラエス判事の管轄する「デジタル・ミリシア（ネット犯罪者）」捜査の対象となっていることに腹を立てていた。

また、やはり大統領支持派の大御所セルタネージャ歌手のセルジオ・レイス（84）とオトニ・デ・パウラ下議（キリスト教社会党・PSC）らが20日に家宅捜査を受け、大統領を激怒させたが、この捜査も「デジタル・ミリシア（ネット犯罪者）」捜査の一環だった。

最高裁判事が罷免されるためには上院で審議されないとならないが、審議にかける以前にパシェコ議長が却下することになった。

パシェコ議長は今回の罷免に関する声明で、「最高裁判事の罷免を行うためには明確な罪状を示す証拠の提出も含め、法的な手続きをしっかりとらなくてはならない」とした上で、上院の法務担当者に精査させた結果、罷免に相当する罪状は認められず、「この罷免請求を受け付ける事は民主主義にとっての脅威になりかねないと判断した」としている。

また同議長は「判事の行った判断に対して批判をすることは、表現の自由の範囲内である」としながらも、「だが、その判断で職を追われることはあってはならない」との判断を行った。そして、「民主主義が退化することは認められない」と言い切っている。

このパシェコ議長による決定の数時間後、ボルソナロ大統領は、「伯国に癌がある限り、我々は戦わなければならない」と主張する動画の拡散を行った。これは4月に自身がネットの生放送で行った発言だった。

大統領はさらにその翌日の26日、ペルナンブッコ州のラジオ局に出演した際、モラエス判事の罷免請求却下に触れ、「残念だ」と答え「（ルイス・ロベルト・）バローゾ判事が上院でコロナ禍の議会調査委員会（CPI）の命令を出した際、パシェコ氏はすぐに従った。私のときとは随分の違いだった」と皮肉った。

パシェコ議長は同CPIに関し、上議たちが開設を求める署名を提出した際は難色を示したが、バローゾ判事の命令が下ったことで開設に動いた経緯があった。

また、この放送の中でボルソナロ氏は、最高裁が現在審理にとりかかっている、新保護区制定を困難にする法案と関連した先住民保護区内の土地の所有権を巡る闘争に関して、「先住民保護区を含む地域の開発が認められないのならば、農業は終りだ」として最高裁を挑発している。

パシェコ議長 (Marcelo Camargo)

州や市が国に先駆け補強接種

「計画無視すれば不足」と警告

本記事は、日本政府支援事業に基づき、サンパウロ日伯援護協会が実施している「コロナ感染防止キャンペーン」の一環です。
ENKYO

【既報関連】保健省が新型コロナの2度目のワクチン接種から6カ月以上過ぎた70歳以上または免疫力の低い人への3度目の接種（補強接種）を、9月15日から始める意向を表明した。その直後、国より早く補強接種を始めると発表する自治体が続いており、ケイロガ保健省が、国の計画に従わないところではワクチン不足が起こるとけん制する事態が起きていると25、26日付伯字紙、サイトが報じた。

9月15日から補強接種を行うとの意向は、24日に開かれた州や市の保健局長らとの会合で明らかにされた。同件は世界保健機関からの批判も浴びたが、25日には再度、9月15日から補強接種開始と確認された。また、9月からはアストラゼネカ製ワクチンの接種間隔を2カ月とする意向も表明。ファイザー社製はまだ検討中だ。

だが、保健省が補強接種開始は9月15日から対象も70歳以上としたのに対し、リオ市は9月1日から、聖州は9月6日からなど、前倒しで始める意向を表明する自治体が出ている。

デルタ株の感染中心地で、病床占有率も高まっているため、高リスク者への感染を防ぎたいリオ市は25日、老人ホーム に住み、2度目の接種から6カ月以上経っている人への接種を9月1～10日に行うと発表。ワクチン不足で停止した州の対象者は60歳以上と免疫力が低下している人で、どこ製のワクチンかはこだわらない。また、補強接種を受けた事は、通常の接種時のような緑のカードではなく、青いカードに記載すると発表した。聖市も新規感染者に占めるデルタ株患者の割合が増えている。

補強接種を最初に始めたのはマラニョン州のサンルイス市で、長期間施設で暮らしている70歳以上の高齢者と医療関係者で2度目の接種から6カ月以上の人への補強接種が26日に始まった。その他の市では9月15日からの予定だ。リオ州ニテロイも26日に、27日から補強接種開始と発表した。

だが、ケイロガ保健相は25日、国の予防接種計画に従わない自治体ではワクチン不足が起こると警告した。

他方、補強接種の必要は25日発表の英国の研究でも確認された。ファイザー製とアストラゼネカ製のワクチン接種完了者の接種後の抗体の状態を調べたところ、1カ月後の感染抑制率が88%だったファイザー製は5～6カ月後は74%に、1カ月後は77%だったアストラゼネカ製は4～5カ月後には67%に、各々、低下したという。

新型コロナのワクチン接種（Myke Sena/MS）

抗体低下は全ワクチンで？

コバクシン疑惑

疑惑の保証企業が浮上

有名宗教家の負債を肩代わり？

上院のコロナ禍の議会調査委員会（CPI）で召喚された企業、FIBバンクが、保健省が不正契約を行ったとみられているインド製コロナワクチン「コバクシン」に関して、有名な福音派牧師のヴァルデミロ・サンチアゴ氏の教会に便宜を図っていた疑惑が浮上している。26日付伯字紙が報じている。

FIBバンクの存在は7月に、コバクシンの不正契約で仲介を行ったとされるプレシーザ・メジカメントスの保証企業として参加をしていたと報じられたときから注目されていた。そのときの報道によると、FIBバンクは16億1千万レアルに及ぶ契約金の内の5%、8070万レアルの請求書をプレシーザを通じて保健省に提出した疑いが持たれている。連邦政府が行う契約に保証企業の参加を認めるのは違法行為にあたる。

同社社長のロベルト・ペレイラ・ラモス・ジュニオル氏はCPIの召喚を受け、25日に同件について、証言を行っている。

このFIBバンクは、テレビの宣教師として有名なヴァルデミロ・サンチアゴ氏の教会「神の力の世界」とのつながりも指摘されはじめている。

ヴァルデミロ氏はボルソナロ大統領支持者として知られ、現在、連邦政府のテレビ局「テレビ・ブラジル」で1日12時間の宗教番組を持っている。現時点では、同局の社主マルコス・トレンチーノ・ダ・シウヴァ氏はFIBの共同経営者でもあることがわかっている。

さらに、レンチーノ氏が聖州地裁での裁判に対し、「神の力の世界」が抱えている1200万レアルの負債の一部の支払いの申し出を、FIBの名義を使った書類を送って行おうとしていたことも明らかになっている。FIB側は、この書類が聖州地裁に却下され、申し出が断られたことをフォーリャ紙に認めている。

トレンチーノ氏はまた、コバクシンの不正契約を指揮していたとの疑惑を持たれている、下院政府リーダーのリカルド・バロス下議（進歩党・PP）の旧友としても知られている。

FIBのロベルト・ペレイラ氏は25日のCPIでの証言で、レナン・カリェイロス報告官から、「あなたはFIBの本当の目的を隠している」として逮捕を命じられそうになっている。

ヴァルデミロ牧師（左、Twitter）

国庫収入

7月は1712億レアルに

昨年同月比で35・4%増

国税庁が25日、7月の国庫収入（税収）は1712億7千万レアルで、7月としては1995年の統計開始以来最良と発表と25、26日付伯字紙、サイトが報じた。

7月の額は広範囲消費者物価指数（IPCA）によるインフレ調整後で昨年同月を34・5%上回った。1～7月も統計開始以来最良で、昨年同期比で実質26・11%増の1兆530億レだった。1～7月の国庫収入の伸びは、法人所得税（IRPJ）の特別徴収や、1～7月の純益に対する社会納付金（CSLL）など、他の年には繰り返されない項目で約240億レが入ってきたためだという。

昨年7月の特別徴収は28億レだったが、今年7月は40億レだった。ここ数カ月間の税収の伸びは、想定以上の収益が上がった企業が差額を納めた事で生じたという。1会計年度に支払ったIRPJやCSLLに見合う額以上の利益を得た時は差額を納めるが、利益が予測を下回った時は、次の分割払いで控除を要請できる。コロナ禍で生じた補償額は昨年7月が208億6千万レ、今年6月が262億6200万レのように増額している。1～7月の累計は3794億8千万レだ。

7月のIPPJとCSLLは411億300万レだったが、社会統合基金（PIS）や社会保険融資納付金（Cofins）も実質33・21%増の316億4100万レに達した。社会保障関連の収入も、昨年中に先送りされた分が入った事もあり、昨年同月比で実質16・64%増の389億5700万レ。貿易関連の税収も実質55・16%増えた。

同庁は、これらの指数は全分野が回復してきている証拠だとしている。

外国為替市況
中銀サイトより
8月26日午後4時現在
米ドル相場
売　5.256 R$
買　5.254 R$
円相場
売　0.0478 R$
買　0.0478 R$

たばこ

課税率アップに7割が賛成

16年以来の値上げ後押しか

国民の7割近くがたばこへの課税率引き上げに賛成していることがわかった。26日付伯字サイトが報じている。

これはダッタフォーリャが、保健団体「ACTプロモッソン・ダ・サウーデ」の依頼により、全国の成人（18歳以上）1985人に対して行ったアンケートの結果、判明したものだ。それによると、68%が、喫煙者にたばこをやめさせる目的も兼ねて「たばこへの課税率引き上げ」に賛成しているという。

さらに、たばこが原因で罹った病気の治療に対しても、71%の人たちが、たばこ業界が統一医療保健システム（SUS）での治療費の一部を負担すべきだと考えていることもわかった。

また、54%の人が、たばこの値段があがると、喫煙者がたばこをやめたり、若い人がたばこを吸ってみようという気持ちを萎えさせたりする理由となり得ると考えていることもわかった。

ACTのディレクター、モニカ・アンドレイス氏は、「国民がたばこへの課税率引き上げに賛同していることがわかったことは大きい。たばこは様々な害も及ぼすため、大豆や米と同じ範疇で語ることはできない」と語っている。

たばこは2016年以降、値上げが行われていない。また、一時的に減っていた消費量が、パンデミックに入ってから増えていることが様々な調査で確認されている。

東西南北

22日に起こった大聖市圏フランコ・ダ・ロシャのジュケリー州立公園での火災後、灰流入などの影響により近隣にある聖市でも大気の質が悪化したが、環境浄化技術公社（Cetesb）によると、23日の聖市内の大気の質の悪さは1999年以来、22年ぶりのワースト級のものだったという。これに加え、今週は連日30度を超える真夏日で、空気も乾燥したため、健康上の被害などにも拍車がかかってしまった。幸い、今日27日からは寒冷前線の到来で雨と湿度が戻ってくる。34度まで上がっていた最高気温は18度まで下がる見込みだが、空気の浄化はもちろんのこと、乾季により水位が下がってきていたカンタレイラをはじめとした水系にとって恵みの雨になってほしい。

◎

25日、午前6時ごろ、サンベルナルド・ド・カンポ市内のアンシエッタ高速道36キロ地点（海岸方面行き）で、トラック2台が衝突して、共に横転する事故が発生した。この事故では運転手のひとりが死亡している。トラックのひとつは6万1千リットルものエタノールを運んでいたため、二次災害が心配されたが、幸いなことに、エタノール漏洩は起きたが、炎上も水系汚染も起こらなかった。この事故の30分前には同道23キロ地点から市内に入るループで、23人を乗せたバスが車線に割り込んできたトラックと接触して横転。8人が負傷した。

◎

25日のサッカーのブラジル杯準々決勝。サントスは敵地でのアトレチコ・パラナエンセに0－1で敗戦。サンパウロは本拠地モルンビでの対フォルタレーザ戦で2－0とリードしていたが、キーパーのヴォルピのミスなどでリードを守りきれず、試合終了間際に追いつかれ、2－2と痛恨の引き分け。第2試合はサントスが14日、サンパウロが15日に行われる。

●サンパウロ日伯援護協会「本部事務局」
TEL: (11) 3274-6483
朝8時から午後5時まで。日本語対応可。相談内容に応じて、福祉士などに回す。

□緊急時の連絡先□

●サンタクルス病院
「新型コロナウイルス感染症の緊急外来受診のためのコールセンター」
TEL: (11) 97572-4602　日本語対応、24時間。

●万が一、医療機関等に隔離され、日本政府の援護が必要な場合の在外公館の連絡先リスト
⇒在ブラジル大使館（連邦区、ゴイアス州、トカンチンス州）
代表電話 (61) 3442-4200 ／ 夜間連絡先 : ブラジル国内から（地域番号なし）4003-2142
サイト : https://www.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在サンパウロ総領事館（サンパウロ州、マト・グロッソ州、マト・グロッソ・ド・スール州、三角ミナス地域）
代表電話 (11) 3254-0100　サイト : https://www.sp.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在クリチバ総領事館（パラナ州、サンタ・カタリーナ州）
代表電話 (41) 3322-4919　サイト : https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在ベレン領事事務所（パラ州、マラニョン州、アマパ州、ピアウイ州）
代表電話 (91) 3249-3344　サイト : https://www.belem.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在リオデジャネイロ総領事館（リオデジャネイロ州、エスピリト・サント州、ミナス・ジェライス州）
代表電話 : (41) 3322-4919 ／ 受付時間外及び休館日 : ブラジル国内から (0) 21-3461-9595
サイト : https://www.rio.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在ポルトアレグレ領事事務所（リオ・グランデ・ド・スール州）
代表電話 : (51) 3334-1299　サイト : https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000040.html
⇒在マナウス総領事館（アマゾナス州、ロンドニア州、ロライマ州、アクレ州）
代表電話 : (92) 3232-2000　サイト : https://www.manaus.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在レシフェ総領事館（セアラー州、リオ・グランデ・ド・ノルテ州、セルジッペ州、ペルナンブコ州、アラゴアス州、バイア州、パライバ州）
代表電話 : (81) 3049-8300　サイト : https://www.recife.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

細川多美子

ブラジルで独自発展した日系魂

世界最大の日系人コミュニティ講演

地域の文協に訪問して聞き取り調査を行う様子（細川理事提供写真）

1月に発表した『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査―日系団体の活動状況フィールド調査からその意義と役割を探る』（nw.org.br/report/）の内容を元に伯国日系社会の実態を紐解くオンライン講演だ。

第1回目講演の申込者は301人、当日は235人が参加し、全伯の約440団体や街中の日系・非日系人に聞き取り調査を行った「リアルボイス」を紹介した。

サンパウロに30年以上住むという細川理事だが、調査前までの日系人のイメージは「野菜や果物の普及に貢献」「和食が人気」「きまじめで社会的信用がある」「日系同士は分かり合いやすい」「一部が文化協会に属している」いった程度の認識だったという。

「南米最大のビジネス街パウリスタ通りを10分歩けば5人は会う」というほど聖市には日系人も多く暮している。その反面、都市部では「日系社会像」は見え辛くなっている。だが地方では日系人の歴史や足跡が色濃く残っているという。

だからブラジル全土の日系団体を調査する事で、日系社会の具体的な姿がみえて来るのではないかと、各地で「Kaikan」や「Bunkyo」の名で親しまれる文化（体育）協会を中心に団体を洗い出していった。

その結果、文化（体育）協会422団体・スポーツクラブ7団体（うち野球チームが5団体）、連合会23団体、伯国内に計452団体有る事が判明した。中には新設準備中や消滅したが集まりのみ残っている例もあり、同講演では440カ所としている。

現地会館まで赴いて会長や役員、婦人部、事情に詳しい長老など約3千人に聞き取り調査を行った。団体の規模や日本語学校の有無、年間行事、地域での存在感など146項目の聞き取りを行ったという。

街頭調査では、町の日系人の意識や周囲の非日系人が日系人にどのような意識を持っているかを調査しており、「ブラジル人の気質なのか、ほとんど断られる事無く皆さん快くこたえてくれた」と振り返る。結果について細川理事は「日系団体の街での存在感は想像以上に大きく、また本人たちが思っている以上に日系人の活躍度や影響は大きい」とまとめる。

一方で会館（地方日系団体）に属す人は約20%に留まっており、大半は会館とはつかず離れずといった関係。「日系人だから必ずしも会館に属するわけでなく、例えばリベルダーデならスーパー丸海に行くなどの文化は共有されていて、個人の日系性を保っているのでは」と分析する。

細川理事は「日本移民の先達は日本人の魂を残そうと努力してきました。それがブラジルで違う発展をして予想外の形で残っている」と実地調査を結論づけた。

第2回目「アマゾンから雪降る町まで、4千キロを貫く日系魂」は27日（金）日本時間19時半から講演が行われる。ブラジル時間では27日（金）午前7時半から。各地日系団体で行われるイベントや、それを裏から支える婦人会について語られる。申込みやイベント詳細は海外移住史料館サイト（www.jica.go.jp/jomm/events/2021/210827.html）まで。

街中の案内標示にKAI-KANと書かれる地域もある（細川理事提供写真）

「ブラジルには世界最大の日系社会があるのは皆さんご存知だと思いますが、どんな風にイメージしていますか？」

――JICA横浜海外移住史料館主催のオンライン講演会が7月17日午前10時（日本時間）に開かれ、サンパウロ人文科学研究所理事の細川多美子さんは、そう聴講者に投げかけた。

同講演のテーマは「世界最大の日系人コミュニティの実像～440カ所のリアルボイス（本当の声）～」。人文研が今年

コロナ対策

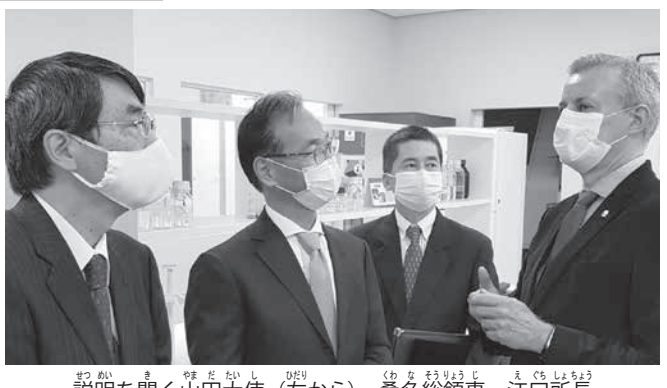
カンピーナス聖州立大で供与式

山田大使と桑名総領事ら訪問

山田彰大使と桑名良輔在聖総領事、江口雅之JICA事務所長は8月12日、カンピーナス聖州立大学病院を訪問した。

同病院と千葉大学が共同で実施している「ブラジルと日本の薬剤耐性を含む真菌感染症診断に関する研究とリファレンス協力体制強化プロジェクト（SATREPS）」の場所である真菌ラボラトリー（LEMDI）を訪問した。

その後、新型コロナウイルス対策としてJICAが調達した機材の供与－ジェクトマネージャーのマ


説明を聞く山田大使（左から）、桑名総領事、江口所長

式にも参加した。

供与式にはカンピーナス大学（UNICAMP）からはアントニオ・ジョゼ・メイレーレス学長や、プロリア・ルイザ・モレッチ教授、プリニオ・トラバッソ教授が参加した。

防護用資機材（マスク等）の他、検査用資機材（ワイヤレス心電図、生体情報連続モニター、ポータブル超音波画像診断装置）と治療用資機材（手動式除細動器）が供与された。

サンセバスチャン日本文化祭り

9月10～12、17～19日

サンパウロ州北部海岸にあるサンセバスチャン市で、恒例の「日本文化祭り：Festival da Cultura Japonesa - São Sebastião Matsuri：」が9月10日から12日、17日から19日の17時～23時にかけて開催される。

本格開催される日本文化イベントとしては久々だ。同祭の会場は、セントロ（Rua da Praia - Centro, Sao Sebastiao - SP）にある野外特設テント。入場料は無料。

一昨年の特設テント内部の様子

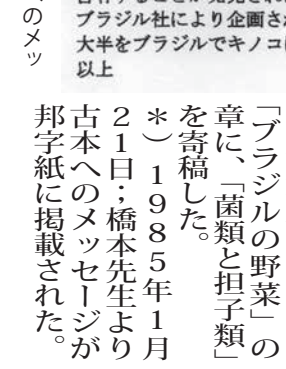
サンセバスチャンは1636年のポルトガル人入植から始まる歴史ある港町だ。同日本人会は今年65周年を迎える。

同祭は、サンセバスチャン市役所に許可を得て、感染対策を徹底した上で開催が決定した。

当日は「焼きそば」や「天ぷら」などの料理やフードトラックでの料理販売をする他、盆栽や蘭の花、折り紙などの展示会・販売店も設置されるようだ。また歌謡ショーやダンス披露などもイベントの一環として行われる予定。

パラグァイ

坂本邦雄さん



当紙へパラグァイに関する寄稿をしていた坂本邦雄さん（神奈川県出身、パラグァイ在住）がアスンシオンの自宅で26日午前11時、老衰のために亡くなった。行年92歳。同日18時から葬儀が行われ、27日にヴィラ・エリサ市のパルケ・セレニダッド墓地で行われる予定。埋葬時間は未定だという。

坂本さんは神奈川県出身で、1932年に3歳で家族と共に伯国サンパウロ州のコーヒー農園に配耕された。その後、宮坂国人氏の呼びかけで1935年に一家でパラグァイへ転住。36年、ラ・コルメナ移住地へ第一陣として入植した。

1954年、公認会計士の資格を取得。ラ・コルメナ農協専務理事を務める。その後アスンシオンにて日本海外移住振興会社、海外移住事業団、イタプア製油会社CAICISAに勤務し、移住関連の事業に携わる。1974年から1992年までは、住友商事のアスンシオン連絡員を務めた。

1959年に公証翻訳人の資格取得してからは種々の法令、法規、フアン・マヌエル・マルコス著『ギュンターの冬』を含む書籍の邦訳も手掛けてきた。最近はパラグァイの大文豪、故アウグスト・ロア・バストスのセルバンテス文学受賞作『Yo el supremo（余は至高の総統なり）』の翻訳出版に挑んでいた。

樹海

軍や警察が最後の砦か？

軍のイメージ（Marcelo Camargo）

ここのところ、軍警や軍人の一部から、「9月7日の独立記念日にボルソナロ大統領に敬意を示し、最高裁へ抗議運動を起こそう」と呼びかける動きがネット上で強まり問題となっている。

彼らの主張の中には、今回の行動を1932年の護憲革命や64年の軍事クーデターと比較する声もあることから、「武装蜂起でもして、ボルソナロ軍事独裁政権でも作るのか」と不安がる声も聞こえてきている。

独裁政権うんぬんに関しては、「秘密裏に闇討ちするならともかく、事前にこれだけ情報が漏れていて世間の目も光る中、それをやるのは困難だろう」というのがコラム子の見方だ。

ただ、「もう、こういう独裁制を狙うくらいのところまでいかないと、ボルソナロ氏の政権維持は苦しくなっているのか」と思う。警察や軍のこうした支持者たちは

そして「軍、警察関係者」だった。

だが「労働者党（PT）政権末期以降からの経済復興」をボルソナロ氏に期待した企業家は、経済再建がうまくいかず、コロナ対策での大失態や、一人相撲で民主主義を脅かすボルソナロ氏にその望みを託すことを諦めた

に、身内をコロナで失ってしまった人も少なくないだろう。

そうなると、頼みの綱は軍か警察、ということに結果的になってしまう。彼らからすればボルソナロ氏の存在は、「軍政崩壊以来、社会からの目線が冷たかった状況を変えてくれた」と感謝している人もいるだろうし、マッチョな価値観を好む人には刺激的な部分もあるのだろう。

ただ、支持基盤がそうした人ばかりになってしまうと、理屈でなく暴力的でさえある感情のみで動いてしまいがちになる懸念がある。こうなると多くの国民からの支持は相当苦しくなるはずだが。（陽）

ボルソナロ氏にとっての最後の砦になっているような状況だ。

そうなると、残るは福音派と軍、警察関係だけだ。彼らがボルソナロ氏が掲げた「汚職の撲滅」や「経済復興」などが叶わずとも同氏を支持するのは、これまで社会的には広く受け入れられてこなかった自分たちの保守的な価値観を浸透させてくれることを期待してのものだったと思われる。

だが、このところ「福音派のボルソナロ氏離れ」を報道するものも多くなっている。大統領選の世論調査でもボルソナロ氏は福音派のあいだでは1位ではあるものの、ルーラ氏との差は大きくない。

さらに「ボルソナロ氏はキリスト教の価値観を代表などしていない」という聖職者の声も目立ち始めている。

この背景には、コロナへの無策で約58万人を死なせてしまったことも大きいだろう。ボルソナロ氏の主張に従っているあいだ

この為藁の価格は逆に高騰を招き藁の代替原料を如何にするかは栽培者の最大の課題になった。当初は近隣の休閑地や山里に自生する雑草の性状や有効成分も解らず、先ず現物で試行錯誤を繰り返し効果を確認して実用の可否を判断した。カッピン・アンゴラ（Panium maximum jacq.）は低湿地を好む牧草で、草が発酵して分解に至る温度は低く長時間を要した。他のカッピン・ゴルドウラ（Melinis muminutiflora Beauv.）やブラッキアリ（Brachiari setegera）等は発酵過程での温度も　高温で堆肥に通気性をもたらし発酵を促進し、近隣の里山に群生繁茂して入手が容易だった。

その後、菌床材料としては砂糖黍の搾り粕のバカソが実用化され、バカソ80%、稲藁または牧草20%を配合し、更に堆肥の肥効強化剤と発酵促進剤として各種の微量要素を添加して、菌床の堆肥材料はマッシュルーム及びアガリクスに共通した配合仕様として標準化された。

＊）菌床材料の具備すべき条件；発酵後の良好な肥効成分、低コスト、堆肥作りの作業性、安定した質と量的供給能力、高温発酵による早期熟成、菌床での菌糸と子実体の成長促進。

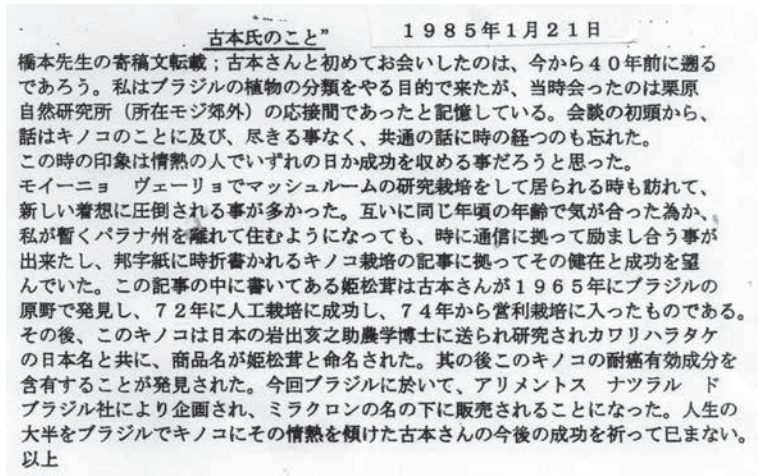
＊）1975年；台湾系移民によるキノコ村は創設10年を迎えた。過疎地に創設されたキノコ村であったが、今や人の往来も繁く様々な店舗も並び、リオ街道筋は村落の景観を呈していた。学校帰りの台湾系の子供達は地元の仲間に混じり騒ぎ合い、ミニスーパーで食材を求めるご婦人方の多くも、当時の在伯15年の私より遥かにマシなポルトガル語で店員と話合うなど微笑ましい民族同化の一端を窺い知る事が出来た。

キノコ栽培事業の誘致に伴うキノコ関連作業の雇用創出により現地を潤す収入がもたらした、ささやかだが予測された経済連鎖である。更には台湾系と現地住民との心和む融和の深さの理由を興味深く会得した。

それは台湾系は誰とでも気さくに良く喋るので言葉の習得が異常に早い。お喋りは国民性や言葉の文法が中国語に類似している事もあるが、お喋りは天性の言葉の習得と人との融和を、極めて自然体で馴致させてくれる常套手段として、我々日本人は大いに見習うべきである。

＊）1983年；既述の如く古本は橋本に請われ、農水省熱帯農業研究センター刊行の熱帯農業技術叢書18号「ブラジルの野菜」の章に、「菌類と担子類」を寄稿した。

＊）1985年1月21日；橋本先生より古本へのメッセージが邦字紙に掲載された。


古本氏のこと”　１９８５年１月２１日

橋本先生の寄稿文転載；古本さんと初めてお会いしたのは、今から４０年前に遡るであろう。私はブラジルの植物の分類をやる目的で来たが、当時会ったのは栗原自然研究所（所在モジ郊外）の応接間であったと記憶している。会談の初頭から、話はキノコのことに及び、尽きる事なく、共通の話に時の経つのも忘れた。
この時の印象は情熱の人でいずれの日か成功を収める事だろうと思った。
モイーニョ　ヴェーリョでマッシュルームの研究栽培をして居られる時も訪れて、新しい着想に圧倒される事が多かった。互いに同じ年頃の年齢で気が合った為か、私が暫くパラナ州を離れて住むようになっても、時に通信に拠って励まし合う事が出来たし、邦字紙に時折書かれるキノコ栽培の記事に拠ってその健在と成功を望んでいた。この記事の中に書いてある姫松茸は古本さんが１９６５年にブラジルの原野で発見し、７２年に人工栽培に成功し、７４年から営利栽培に入ったものである。その後、このキノコは日本の岩出亥之助農学博士に送られ研究されカワリハラタケの日本名と共に、商品名が姫松茸と命名された。其の後このキノコの耐癌有効成分を含有することが発見された。今回ブラジルに於いて、アリメントス　ナツラル　ドブラジル社により企画され、ミラクロンの名の下に販売されることになった。人生の大半をブラジルでキノコにその情熱を傾けた古本さんの今後の成功を祈って已まない。
以上

邦字紙に掲載された橋本先生より古本へのメッセージ

父が子にワクチン接種
今は亡き祖父の誕生日に

接種を終えて抱擁を交わすロジェリオ氏とマウリシオ氏（Divulgação/SMCS）

新型コロナ感染症で57万人を超える人々が命を失った伯国だが、現在はワクチン接種が進んでいる。1年半に及ぶ新型コロナとの戦いの中、特別な思いでワクチン接種に関わった人達がいると22日付G1サイトなどが報じた。

23歳の学生のマウリシオ・ジョアキン・グリボウスキ氏は21日、伯国南部のパラナ州クリチバ市でワクチン接種を受けた。同氏に接種を施したのは、週末だけ予防接種キャンペーンを手伝っている歯科医で父のロジェリオ・ド・アマラル・フェレイラ氏だ。

祖父をコロナで失った事もあり、ワクチン接種を受けられる日を心待ちしていた上、州内ではデルタ株による感染が拡大し、死者も出ているという情勢下で初回接種を受けたマウリシオ氏は、父から接種を受けるという形で、不安と期待の入り混じる状態が終わる喜びを分かち合った。

マウリシオ氏がロジェリオ氏が接種を施していたテントで接種を受けられるか否かは、一方的に割り振られるため、テントに行くよう指示された上、そこにいた人々から「ほら、ロジェリオ先生の息子さんだ」と言われ、拍手を受けた時には胸が熱くなったという。

他方、マウリシオ氏以上に彼の接種を喜んだのはロジェリオ氏だ。医師として、息子の年代の青年達に接種を施す事ができただけでなく、息子にも接種を施す特権にあずかったロジェリオ氏は、「本当にありがたい」という言葉で喜びを表現した。

ロジェリオ氏らは、マウリシオ氏に接種を施す様子を撮影した知人が、インターネットにビデオを掲載した事や、多くの人がそれを見て好意的な反応を示した事に驚いた。ビデオには、マウリシオ氏が父親に「おじいちゃんが見ていたら、きっと、僕達の事を自慢するよね」と語った瞬間も映っていた。

マウリシオ氏がこの時言及したのは、ロジェリオ氏の父で今年3月に87歳で亡くなったアルセウ氏の事だ。アルセウ氏は初回接種を受けたものの、2度目の接種を受ける前に新型コロナに感染して亡くなった。21日はアルセウ氏の誕生日だった。

マウリシオ氏は接種を受けた後、「祖父が生きていたら、皆が揃って誕生日を祝っていたのに…。でも、僕達が一堂に会し、ワクチン接種を施す側と受ける側とで、互いに責任を果たした事を誇らしく思ったに違いない」との言葉で、祖父への思いと父から接種を受ける事ができた喜びを語った。無論、その最後には、接種後も感染の可能性がある事などへの注意喚起を含めた「気をつけて！」の言葉も忘れなかった。

クリチバ市では同日、4万5611人の若者がワクチン接種を受けており、ロジェリオ氏とマウリシオ氏以外にも、看護師の父が4人目となる息子（末っ子）への接種を施した事が報じられている。

（25日付掲載）

当地メディアの広範なニュース ブラジルピックス ホットな話題をここで

中国長城

大型投資発表、本格進出へ
メルセデスの自動車工場買収

10年間かけて伯国進出の機会を探っていた中国のグループ企業「中国長城（Great Wall）」が18日、聖州イラセマポリスにあるメルセデス・ベンツ社の工場を買い取る契約に署名したと同日付エスタード紙などが報じた。

同工場の買い取り価格は明らかにされていないが、中国長城グループで自動車製造を担当している中国長城汽車（Great Wall Motor）は、創業1984年の若い企業でありながら、中国の自動車業界では民間企業最大手だ。同社が得意とするのは伯国でも人気があるスポーツ用多目的車（SUV）とピックアップトラックだという。

工場購入の発表時、同社は既にイラセマポリスの工場の生産能力を現在の2万台から10万台に拡張する意向も明らかにした。現在の工場は2016年に造られたもので、その当時で6億レアルを費やしたが、昨年12月に閉鎖されている。

今回の購入契約には、120万平米の土地や建物、生産に関連する機材の全てが含まれ、生産能力が10万台に達した時点の従業員数は2千人とみられている。

同社南米地区の生産・戦略担当理事のアンデルソン・スズキ氏は、伯国には、今回の工場買収を含め、今後5年間で40億レアルを投じる予定である事を明らかにした。同社では、実質ゼロの伯国市場に製造拠点と販売網を築いていく意向だ。

契約締結の発表時、メルセデス側は、同社の販売店は今後も輸入車の販売を継続すると発表。同工場の売却はトラックやバスの生産には影響しない事も明らかにした。

中国長城汽車製の第3世代のＨａｖａｌ　Ｈ６（Jengtingchen, via Wikimedia Commons）

中国長城汽車側は、今回の工場購入は南米市場への進出、発展を加速するだけでなく、世界的な自動車メーカーとなるための足がかりと強調。

現在の車の販売量は落ちているものの、「伯国はラ米一人口が多く、経済力も地域一。自動車の販売数は世界7位と、同業界でも伸び代が大きな国」で、「国際化に向けた世界戦略の重要拠点」と語っている。

同社では伯国への投資は、消費者にとっても利便で安全、高品質な製品を提供するための貴重な経験をもたらすとの考えも明らかにした。

聖市

市立校に太陽光発電導入
保健所へのモデルを拡大適用

伯国南東部や中西部、南部での水危機が深刻化し、それに伴う電力供給への懸念も広がる中、聖市市役所が市立校や教育センター、保健所に太陽光発電用のパネルを設置する意向だと20日付エスタード紙などが報じた。

80の保健所（UBS）への太陽光発電用のパネル設置は、コンソルシオ・ソル・ダ・サウデが担当する事が決まり、20日付官報に掲載された。運営期間は25年間で、落札価格は市が入札規定に記載した価格より40％安い、年200万レアル（17万1400レアル／月）だった。

市役所によると、パネルが設置されるのは80カ所のUBSだが、隣接するUBS92カ所もリモート供給されるため、計172カ所のUBSが恩恵にあずかるという。初年度は3・45メガワット（MW）の発電能力のある設備が導入され、5・5ギガワット／時（GWh）の電力供給が可能となる見込みだ。

教育関係の施設は少なくとも775校が対象となる予定で、現在は関心のある企業による視察が終わり、どの位の価格で入札するかを検討している段階だという。

7月14日付の官報に掲載された「関心表明手続きへの応募規定」によると、教育機関への太陽光発電導入は官民パートナーシップ（PPP）の形をとり、正式な入札規定は2022年の初頭に発表される予定だ。

保健・医療関連の施設への太陽光発電導入は、環境面に配慮した持続可能なプロジェクトの一つで、教育関連の施設にも適用される事になった。市役所側はこれにより、教育施設への電力供給とともに、環境保全や気候変動に関する教育を進める効果もあると考えている。市役所側は、教育施設への太陽光発電導入により、約16万トンの温室効果ガスの排出が抑制されると見ている。

市役所によると、保健施設への太陽光発電導入計画には七つの企業体が応札した。UBSへの太陽光発電導入によって抑制される温室効果ガスの排出見込み量は2万4千トンで、乗用車1万5千台が排出する量に相当するという。これだけの量の温室効果ガスを吸収するには、イビラプエラ公園に植えられている木の9倍の15万本を植樹する必要があるという。

市役所は、172のUBSが25年間で必要とする電気関連の経費は、1億4300万レアルから6870万レアル（対価プラス電気代）に減ると試算している。太陽光発電によって節約できる経費は、保健衛生部門や教育部門、経営・管理部門などに振り分けられる予定だという。

（21日付掲載）

ミナス州

ブルマジーニョで遺体発見
ダム決壊から30カ月以上経て

2019年1月25日に起きたミナス州ブルマジーニョでのダム決壊事故から942日後の24日、同州の消防隊が新たな遺体発見と発表したと同日付G1サイトなどが報じた。

発表によると、コレゴ・ド・フェイジョンと呼ばれるコミュニティに程近いところから見つかった遺体は、かなりまとまった状態で発見されており、これまでに見つかっている遺体の一部ではなく、新たな遺体と考えられるという。

消防隊によると、発見現場にはダムから流出した鉱滓で流されたコンクリートの構造物などがあり、遺体がひどい損傷を受けたりばらばらになったりするのを防いだ可能性があるという。

新たに見つかった遺体は男性のものと見られているが、年齢などは推定できないという。年齢や身元などの確認作業は法医学研究所や欧米の専門機関での作業となる。

ブルマジーニョでの遺体捜索は新型コロナの感染拡大で一時的に中断されていたが、消防士達は最後の一人が見つかるまでと、希望を捨てずに作業を続けている。

現地では1月14日にも大たい骨が見つかっており、5月には身元不明者とされていた遺体の一つの身元も判明した。

新たな遺体が発見されたレマンソ1の捜索現場（Corpo de Bombeiros）

聖州知事

大統領派の軍警司令官を更迭
政治デモ擁護や最高裁攻撃で

聖州のジョアン・ドリア知事が23日、同州ソロカバ地方の軍警部隊を率いていたアレクサンデル・ラセルダ大佐に司令官として相応しくない言動があったとして更迭したと発表したと同日付G1サイトやアジェンシア・ブラジルなどが報じた。

同日付メディアの報道によると、ラセルダ氏は自分のソーシャルネットワークサービス（SNS）のアカウントに、9月7日に計画されているボルソナロ大統領支持派の抗議行動を擁護し、最高裁を攻撃する内容の投稿を行っていたという。

ラセルダ氏はこれらの投稿で、9月7日の抗議行動に軍警も参加するよう呼びかけている。また、最高裁に対する攻撃はアレッシャンドレ・デ・モラエス判事を中心とするもので、ボルソナロ大統領が20日に提出したアレッシャンドレ・デ・モラエス最高裁判事に対する罷免請求を取り上げようとしていないとして、ロドリゴ・パシェコ上院議長を批判する投稿も行っている。

SNSにはボルソナロ大統領と対立し、22年の大統領選出馬を考えているドリア知事や、ドリア氏の出馬を後押しするために同州戦略計画局長に就任したばかりのロドリゴ・マイア前下院議長を攻撃する投稿も行われていたという。

ドリア知事は23日、このような行為は現職の軍警が政治的なイベントや特定の政党と関係のあるイベントに参加したり参加を呼びかけたりする事を禁じた規定に反しているとして、同日付でラセルダ氏を更迭したと説明した。ラセルダ氏が指揮していたのは、ソロカバ地域78市で活動する軍警約5千人が所属しているCPI―7と呼ばれる部隊だ。

ラセルダ氏は最高裁攻撃などの投稿後、SNSを閲覧できる人を友人などに限定する措置もとっていたという。

（25日付掲載）

ラセルダ氏（Twitter）

消費者信頼感指数が低下
4カ月続けて上昇後初めて

ジェツリオ・ヴァルガス財団（FGV）が25日、8月の消費者信頼感指数（ICC）は前月比で0・4ポイント減の81・8ポイントになったと発表したと同日付G1サイトなどが報じた。

ICCは0～200で表現され、100を超えると肯定的な評価をしていると判断される。そういう意味では、低下する前の7月さえ、決してよい状態とはいえない。それでも4カ月間連続して上昇していた事を反映し、6～8月の3カ月間の平均は3～5月の3カ月間の平均を1・89ポイント上回る81・6ポイントとなっている。

8月のICCが低下したのは、現状に対する信頼感が1・1ポイント低下して69・8ポイントとなった事が大きく影響した。特に現在の家計の状態への満足度が2・8ポイントと大幅に低下し、4月以来最低の63・0になったのが注目される。

他方、将来への信頼感は0・1ポイントの変化に止まり、実質的に安定した状態といえる。将来への信頼感は90・9ポイントとなった。

FGV調査員のヴィアネ・セダ・ビッテンコート氏は、現在の家計の状態への満足度が大幅に低下した最大の要因は、失業率が高止まりしている事とインフレが高進している事で購買力が落ちている事だと見ている。

失業率の高止まりとインフレ高進で買い物でも再考が必要となる人が増えている（Rovena Rosa/Arquivo Agencia Brasil）

が、借財を抱える人や負債額が増えている事も信頼感を損なわせているようだ。

また、購買力が比較的高い人達の間でも信頼感が揺らいでいるのは、デルタ株の感染拡大でパンデミックの先行きに対する不透明感が強まっている事が原因と見ている。

（26日付掲載）

直接・間接の雇用創出や製造業界への貢献が、国内の工業界の変革や刷新を招き、税収増といった面での貢献も約束できると語った。同工場の完全移譲は年内に行われる見込みだ。

伯国ではイラセマポリス工場以外にも、1月に閉鎖したフォード社のカマサリ工場（バイア州）やタウバテ工場（サンパウロ州）、9月に閉鎖する予定のTroller社のオリゾンテ工場（セアラー州）の3工場が、売却対象となっている。

（20日付掲載）

ミナス州

紅班熱で曽祖父と孫が死亡
マダニに刺されて発症

ミナス州コンタージェン市役所が18日、73歳の男性とそのひ孫で4歳の子供が紅班熱（FEBRE MACULOSA）で亡くなったと発表した。二人は同じ家に住んでおり、病気を引き起こすマダニに対する対策をとるようにとの警告が強化されたと19日付G1サイトなどが報じた。

紅班熱は高熱、発疹、頭痛、目の奥の痛み、吐き気、下痢、節々の痛みなどを伴う病気で、熱は39～40度に達する。米粒大から小豆大の紅い斑点が全身に出るが、痛みやかゆみはない。

マダニに刺された部分が赤く腫れ、中心部に黒いかさぶたや潰瘍のようなものが見られる刺し口ができるのも特徴だ。

死者が出たのはナシオナル区で、市役所は新たな死者が出るのを防ぐため、近隣の1300世帯を訪ね、病気の特徴や注意事項を説明した。

死者が出た地区の719戸については、マダニを退治するための殺虫剤を散布する措置もとった。同地区では来週から、雑木林の枝払いなどを行うなど、マダニの発生や繁殖を防ぐ措置も行う予定だという。

コンタージェン市は同州都のベロ・オリゾンテ大都市圏にあり、ナシオナル区はベロ市と市境をなしている。同地区は雑木林などが多く、2019年にも同病による死者が出ている。

（21日付掲載）

紅班熱を引き起こすマダニ（Adelcio R. Barbosa/Divulgação）

ミナス州

鉱山で起きたダム決壊事故
新たな犠牲者の身元判明

ジョン鉱山で起きたダム決壊による犠牲者の発見を待ち望んでいる遺族達にとって、大きな励ましだ」「犠牲者は男性と見られる。この宝石はレマンソ1と呼ばれる区域で見つかった。希望が我々に伴っている」というツイッターを流した。

（26日付掲載）

＊25日付G1サイトによると、24日に発見された遺体は夜を徹した鑑定作業の結果、双子出産直後だったジュリアナ・クレイジマル・レゼンデ・シルヴァ氏（33）と判明した。

ダム決壊事故の犠牲者は計270人とされており、今回発見された遺体が新たな犠牲者のものだとすれば、行方不明者はあと9人となる。

同州のロメウ・ゼマ知事は遺体発見の報告を受けた24日、「ミナス州の消防士達が、止む事のない作業の結果、本日17時頃、ブルマジーニョで起きた災害で埋もれたままになっていた宝石をもう一つ見つけた。コレゴ・ド・フェイジョンの犠牲者は計270人とされており、今回発見された遺体が新たな犠牲者のものだとすれば、行方不明者はあと9人となる。

同州のロメウ・ゼマ知事は遺体発見の報告を受けた24日、「ミナス州の消防士達が、止む事のない作業の結果、本日17時頃、ブルマジーニョで起きた災害で埋もれたままになっていた宝石をもう一つ見つけた。コレゴ・ド・フェイ

米に大使館存続要求

タリバン「安全を保証」
アフガン、国際承認狙う

【ワシントン、イスラマバード共同】アフガニスタンで実権を掌握したイスラム主義組織タリバンが米国に対し８月末の駐留米軍の撤退期限後も大使館を存続するよう要求、安全も保証すると伝えていることが２６日分かった。複数の外交筋が明らかにした。米国との決定的な断絶を避け、新政権の国際承認につなげる狙いがあるとみられる。

バイデン米政権は、米軍撤退後も米国人らの国外退避に必要な領事業務などを続けるため「詳細な計画を練っている」（ブリンケン国務長官）としており、首都カブールの空港に移した大使館機能の今後の在り方を慎重に検討している。アフガン新政権の承認には女性の権利保障を含む条件を課しており、タリバンの対応を見極める方針だ。

タリバン幹部は米側に要望を伝えたと認め、共同通信の取材に「米国がとどまることを強く望んでいる。安全を保証するとも伝えているが、残るか去るかの判断は強要できない」と述べた。

外交筋によると、タリバンはカブールや、政治部門が拠点を置くカタールのドーハなどで米国と協議を重ね、大使館存続の要望を伝達した。政治部門指導者バラダル師とバーンズ米中央情報局（ＣＩＡ）長官による２３日のカブールでの秘密会談でも議題になった可能性がある。

ブリンケン氏は２５日の記者会見で、退避支援について「期限はない」と述べた。アフガンには１５００人程度の米国人が残っているとみられる。

米政府によると、大使館機能を置く空港の周辺では過激派組織「イスラム国」（ＩＳ）系勢力がテロ行為をするとの情報がある。治安の悪化が進めば、大使館機能の存続は難しくなりそうだ。

タリバンは女性の人権に配慮する姿勢をアピールして国際社会との関係づくりを模索しているが、過激派とのつながりを絶っておらず、アフガンが再びテロの温床になるとの懸念が強い。

女子生徒らアフガン脱出
教育継続求めルワンダへ

【ナイロビ共同】アフガニスタンの首都カブールにある私立女子校に通う生徒らが、教育継続のためにアフリカ中部ルワンダへ向け出国したことが２６日までに分かった。同校の共同創設者シャバナ・バシージラシーフ氏がツイッターで明らかにした。

イスラム主義組織タリバンが実権を掌握したアフガニスタンでは、教育の機会が担保されない恐れがあると判断し“脱出”を決めたとみられる。保護者や教職員も同行している。

同校「アフガニスタン指導者学院」は同国初の全寮制女子校として２００８年に設立。タリバンは女性の権利をイスラム法の枠内で尊重すると主張しているが、０１年までの旧政権時代には女子教育を厳しく制限した。バシージラシーフ氏は出国報告に先立ち、安全確保のため生徒の記録を焼却したことを明らかにしていた。

バシージラシーフ氏はルワンダへの滞在は一時的なものになるとした上で、「状況が許せばアフガンに帰国したい」と説明した。ルワンダの教育省は生徒らに対する歓迎の意を示した。

英フェスで６百人超感染か
政府の実験、４万人が入場

【ロンドン共同】英南東部サフォーク州で７月下旬に開催された音楽フェスティバルに参加した約４万人のうち、６１９人が新型コロナウイルスに感染した可能性があることが同州当局が公表したデータで明らかになった。英メディアが２５日伝えた。

フェスは、大観衆を入れ感染対策の効果を実証する政府の実験イベントの一つ。南部イングランドで新型コロナ規制がほぼ撤廃された直後の７月２２～２５日に行われた。

入場する全ての観客は陰性証明かワクチン接種証明の提示が義務付けられていたが、既に感染しウイルスを他者にうつす可能性があった参加者が４３２人いたとみられる。

政府は、６～７月に行われたサッカー欧州選手権のうち、ロンドンの競技場で試合を実施した決勝や準決勝などを含む３０以上のイベントを実験対象に指定。観客が叫んだり熱唱したりした同選手権では約６４００人が感染したとみられる。

学習の土台鍛えるコグトレ
生きづらさ抱える子どもに

【共同】頑張って勉強しても、ひらがなや漢字を覚えられない。先生の指示がうまく頭に入らず、同級生と同じように動けない―。こうした生きづらさを抱える子どもの「見る力」「聞く力」「想像する力」といった認知機能を高めるトレーニング法「コグトレ」が注目されている。昨年１月には大阪府吹田市に専門塾が開校し、学校現場でも徐々に広がりを見せている。

▽面倒な子

コグトレを開発したのは、児童精神科医の宮口幸治立命館大教授。かつては軽度知的障害に認定されたＩＱ７０～８４ほどの「境界知能」の人々に焦点を当てた著書「ケーキの切れない非行少年たち」がある。宮口教授によると、境界知能の子どもは１４％程度いるが、病院で診断名がつかず支援の枠からこぼれ落ちるため、「やる気がない」「面倒な子」と扱われてしまうケースが多いという。

少年院で本来支援が必要だった多くの非行少年に出会った経験から、学習の土台となる認知機能を鍛える必要性に着目。認知能力のほか感情などをコントロールする対人力、協調運動ができる身体力を強化するコグトレを考案した。

▽漢字の形

大阪府吹田市に開校した「コグトレ塾」では現在、通信コースを含め年長児から中学生まで約５０人が受講する。責任者の長谷川佳代子さんによると、子どもへの知能検査や保護者への出産時までさかのぼる詳細な聞き取りを基に必要なプログラムを決定。通塾できる場合は週１度、１時間半程度トレーニングを行う。

４×４の升目に入った五つの文字を覚えたり、点をつないだ絵や図形を模写したり。一見、学校の勉強とは関係のないように映るが、見て覚える能力を強化するトレーニングだ。繰り返すうち、苦手だった板書をノートに書き写す作業についていけるようになり、漢字の形を理解して書けるようにもなるという。

▽しんどさ

コグトレを経て「忘れ物がなくなった」「読書を楽しめるようになった」といった多様な効果が表れるが、「何より子どもが自信を持ち、すごく変わっていく」と長谷川さん。図形を正確に写せない様子などから、保護者が子どもの状況を理解できる意義も大きく「できないことはその子にとってつらいこと。自分のしんどさを保護者が分かってくれる存在になると安心感も違う」と語る。

宮口教授は「小学校低学年で九九や漢字を覚える力はまさにコグトレで養う認知機能と直結し、その後の学習に大きく影響する」と指摘。「周囲の大人が『この子は勉強が苦手だ』と勝手に判断せず、どこにつまずいて困っているのか、気付いて対応する必要がある」と話している。

演習終了、北朝鮮動かず
内政優先か、米韓動向注視

【ソウル、北京共同】米韓両軍は２６日、合同指揮所演習を終了した。北朝鮮は１０日から事実上始まった演習に反発して対抗措置を警告していたが、期間中に目立った対応を取らなかった。内政を優先させているとの見方もあるが、今年３月の米韓演習では終了から１週間後に新型弾道ミサイルを発射しており、米韓は引き続き北朝鮮の動向を注視する。

北朝鮮は新型コロナウイルス対策での国境封鎖で経済が悪化。今月に入って、同国東部などで水害も発生した。朝鮮中央通信は米韓演習中の２１日、約３週間ぶりに金正恩朝鮮労働党総書記の動静を伝えたが、視察先は軍事関連ではなく平壌市内の住宅建設事業だった。

２１～２４日には、米国のソン・キム北朝鮮担当特別代表が韓国を訪問。「演習は防御のためで、北朝鮮に敵対的意図は持っていない」と改めて対話を呼び掛けたが、北朝鮮は反応を示していない。

北朝鮮のミサイル発射といった軍事行動には技術的な目的のほか、米国などの関心を引きつけたい狙いがある。内政の苦境が続く中で、本格的な対米交渉を仕掛けるタイミングではないと判断している可能性もあり、北京の外交筋は「中国政府は北朝鮮がすぐに極端な挑発行動に出ることはないとみている」と語る。

ただ、北朝鮮は中国だけでなく、最近はロシアとも密着を強める動きを見せている。中国だけに依存することを避ける思惑とみられ、中朝間でどこまで意思疎通が成立しているのかは不明な部分もある。

次世代半導体、研究強化
文科省、概算９億円要求へ

【共同】文部科学省は２５日までに、大幅な省電力などが期待される次世代半導体の開発を目指す研究や人材育成の態勢強化に乗り出す方針を固めた。来年度予算の概算要求に９億円を盛り込む方向で調整している。新しい記憶装置（メモリー）、中央演算処理装置（ＣＰＵ）などの設計から製造までを一貫して研究するチームを“拠点”とし、予算を重点的に付ける方向だ。

スマートフォンやパソコンの進化に伴い半導体の消費電力が増大し、課題となっている。電力の節約によって環境に与える悪影響を減らせるとも期待されている。

かつて世界をリードしていた日本の半導体事業は劣勢が指摘されており、次世代型の開発も含めた事業強化を戦略上「国家事業」と位置付ける経済産業省と連携して後押しすることも目指す。

半導体の設計や製造、材料などの研究開発を主導する大学や国立研究開発法人がチームをつくり、そこに他の機関や民間企業が参加する想定。拠点は複数つくる方向だ。

一つの拠点には数億円の支援を見込んでいる。事業は２０２２～３１年度の１０年間を計画しており、長期の支援で人材の育成を促す狙いもある。

研究の主な対象とするのは、コンピューターの「頭脳」となるロジック半導体や、記憶を担うメモリー半導体。電力の制御などに用いるパワー半導体と比べて遅れ気味で、日本勢のてこ入れが急務とされる。

大谷、２桁勝利へ足踏み
ルース生誕地で３発浴びる

【ボルティモア共同＝松下裕一】エンゼルスの大谷はベーブ・ルース生誕の地で９勝目をつかみ損ねた。７月上旬からのクオリティースタート（６回以上を自責点３以下）は６試合連続で止まり、ルース以来の「２桁勝利、２桁本塁打」へ足踏みとなった。

１９連敗中だった相手打線は「１、２、３（のタイミング）で来る打者が多かった」という。一回は先頭に初球を柵越えされ、２死後に４番にも一発を浴びた。１試合に複数本塁打を打たれたのは４年目で初で、６―２の四回にも５番に２ランを許した。五回までに８４球を費やし「あそこから上げて、あと２、３回抑えたい」ともう一踏ん張りする前に交代となった。

西海岸に比べ、高温多湿の球場でも「大きな変化はなかった」という。初めてのマウンドへの戸惑いもなかったそうだが、１６日から５都市を回る長期遠征の疲れがあって当然だ。打者では３三振を喫し、６試合ぶりの本塁打は出なかった。

今後は週１度なら５度の登板が見込める。先発の頭数が足りない現状に「行けと言われれば、もちろん行きたい」と間隔を詰めることにも前向きだ。２桁勝利到達のチャンスはまだ十分にある。

智弁学園など準決勝進出
全国高校野球選手権

【共同】全国高校野球選手権大会第１３日は２６日、甲子園球場で準々決勝が行われ、智弁学園（奈良）京都国際、智弁和歌山、近江（滋賀）が準決勝に進んだ。近畿勢がベスト４を占めるのは大会史上初めて。

智弁学園は明徳義塾（高知）に３―２で逆転サヨナラ勝ちし、２６年ぶりのベスト４。１―２の九回無死満塁から押し出し死球で追い付き、岡島が適時打を放った。

初出場の京都国際は敦賀気比（福井）に３―２でサヨナラ勝ち。平野、森下の継投でしのぎ、同点の九回に相手失策で決勝点を挙げた。

智弁和歌山は１５安打を放って、石見智翠館（島根）に９―１で快勝。１５年ぶりのベスト４。

近江は神戸国際大付（兵庫）に７―６でサヨナラ勝ちし、２０年ぶりの４強。６―６の九回１死一塁から春山が適時打を放った。

２７日は休養日で、２８日の準決勝は近江―智弁和歌山、智弁学園―京都国際の組み合わせで行われる。

智弁学園―明徳義塾　９回裏智弁学園無死満塁、岡島が右前にサヨナラ打を放つ。捕手加藤（共同）

パラリンピック
終盤我慢比べ、狙いぴたり
鈴木、会心の逆転「金」

【共同＝鉄谷】５０メートルのターンを終えて先行するベジャト（イタリア）との差は体一つ分以上に開いた。万事休すかと思われたが、ここからの追い上げが真骨頂だった。男子１００メートル自由形で逆転金メダルの鈴木は「自分としては粘るという感じ。向こうが先に落ちてくれた」と我慢比べのレースを振り返る。

スタートから飛ばして疲れの見えた２３歳の若手を、３４歳のベテランは左呼吸で視野に収めながら猛追。残り１０メートル手前で並ぶと、そのまま一気に抜き去った。

「決勝は力みも出るので、落ち着いて入ることを心掛けた」という前半は、初出場のベジャトと０秒５９差。慌てずに「テンポを崩さないこと」を意識した。終盤勝負の狙いがぴたりとはまった会心のレース。予選では世界記録保持者のダダオン（イスラエル）がまさかの失格に。好機をものにする勝負強さがあった。

メダルなしに終わったリオデジャネイロ大会から５年。拠点を置く英国と行き来しながら、さらに進化する道を探った。四肢に欠損のある鈴木にとってトレーニングの困難な体幹の強化にも取り組んだ。「何かに取り組んでいる時に、成果や進歩を実感できると、やる気になる。積み重ねでここまできた」と、１３年ぶりに取り戻した金メダルの重みをかみしめた。

２０１８年に自由形の障害クラスが従来より一つ重いＳ４になったことも躍進の背景の一つ。０８年北京大会以来となる表彰台の中央で日の丸を見つめ「新しい気持ちで金メダルをもらった。全く別物のような感じ」と目を潤ませた。

白鵬は四股やすり足で汗
御嶽海、高安ら意欲的に調整

【共同】大相撲秋場所（９月１２日初日・両国国技館）に向けた合同稽古最終日は２６日、国技館内の相撲教習所で行われ、２場所連続４６度目の優勝を狙う横綱白鵬は相撲は取らずに、四股やすり足の基本運動を中心に汗を流した。取材対応はなかった。

３６歳の白鵬は関脇御嶽海や平幕逸ノ城らに、まわしの切り方や差し手の使い方など持ち前の技能を熱心に伝えた。ぶつかり稽古で御嶽海に胸を出して締めくくった。

合同稽古は新型コロナウイルス禍の中で場所前に他の部屋の力士と稽古ができる唯一の機会。今回は４日間の日程で、所属する部屋に自身の他に関取がいない御嶽海や関脇高安らが意欲的に調整した。

御嶽海はこの日、１０番取り「しっかり自分の相撲を取れたので良かった。今やっていることを継続してやるしかない」と気合を入れた。高安は「こういう稽古をしっかり力にして、工夫して体をつくっていきたい」と意気込んだ。

新横綱照ノ富士とかど番の大関貴景勝は今回の合同稽古に参加しなかった。初日に左肘付近を痛めた大関正代は２日目以降を欠席した。

バッハ会長が離日
パラ開会式に出席

【共同】国際パラリンピック委員会（ＩＰＣ）のスペンス広報部長は２６日の記者会見で、国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）のバッハ会長が２５日夜に離日したと明らかにした。

中国式「民主」を正当化
報告書で米対抗意識鮮明

【北京共同】中国共産党は２６日、自らの「歴史的使命」と題する報告書を発表し「民主は一部の国の『特許』ではなく、一つの定まった形式はない」と強調した。一党独裁による統治を正当化すると同時に、政治体制や人権など価値観の問題で対中圧力を強めるバイデン米政権への対抗意識を鮮明にした形だ。

記者会見した党幹部の一人は「米国は真の民主が何か理解できておらず、中国の民主には中国の特色がある」と述べた。

報告書は「一部の外部勢力」が、台湾や香港、新疆ウイグル自治区などを巡り内政干渉しているとも批判。沖縄県・尖閣諸島には言及しなかったが、海洋でも「中国の領土主権と安全に危害を加えている」とした。

その上で、７月の党創建１００年の祝賀大会で習近平総書記（国家主席）が述べた「（中国人をいじめる者は）１４億人の血と肉でできた鋼鉄の長城に頭をぶつけ血を流すだろう」という言葉を盛り込んだ。

一方で、習氏が演説で触れなかった文化大革命などに言及し「党は過ちから学ぶ」とした。負の歴史を覆い隠しているとの国際社会の懸念を払拭する狙いとみられる。１９８９年の天安門事件については「党は政治風波（騒ぎ）の試練を受けた」とした。

都立のヒント
とん平焼き

【共同】

● 材料（2人分）

豚ばら薄切り肉	50g
キャベツ	100g
小口切りにした青ネギ	4g
卵	1個
無調製豆乳	50cc
くず粉	大さじ 1/2
お好み焼きソース	小さじ 2
A	マヨネーズとヨーグルト各小さじ 1

● 作り方

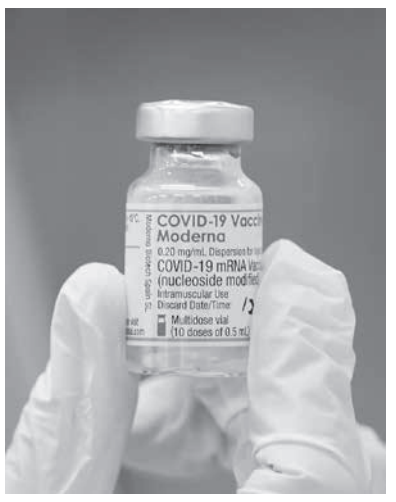
豚肉は幅２㌢、キャベツは幅５㍉に切り、Ａはポリ袋に入れてまぜます。ボウルに卵、豆乳、くず粉、塩と黒こしょう各少々を入れてよくまぜ、生地を作ります。フライパンにごま油小さじ1/8を熱して豚肉を焼き、塩と黒こしょう各少々を振って取り出します。ごま油小さじ1/2を熱し、生地の半量を入れ、大きめに広げます。キャベツと豚肉も半量を横長にのせて生地を三つ折りにし、ふたをしてキャベツがしんなりするまで焼きます。ソースを塗り、ポリ袋の角を切ってAを線状にしぼり出し、青ネギを散らします。同様にもう一つ焼きます。（レシピと写真・ＡＢＣクッキングスタジオ）

１人分213kcal、塩分0.9g

モデルナ製ワクチンに異物

１６３万回分使用見合わせ
５都県８会場から

【共同】厚生労働省は26日、米モデルナ製の新型コロナウイルスワクチンについて、5都県8カ所の接種会場で計39本の未使用状態の瓶から異物の混入が見つかったと発表した。厚労省は混入の危険性が否定できないとして、同時期にスペインにある工場の同じ製造ラインで作られた3ロット計約163万回分の使用を見合わせるよう要請した。各地では職場接種を中断する動きが出るなど影響が広がった。



米モデルナ製の新型コロナウイルスワクチンの瓶（共同）

職場接種、中断の動き

163万回分は国内863カ所の接種会場に納入され、共同通信の集計では少なくとも21都府県で18万7千回余りが接種に使われた。今のところ健康被害の報告はない。配布先の自治体名などは「整理中」として明らかにしていない。

厚労省は「安全性のリスクは大きくない」としているものの、個人が対象のワクチンを接種したかどうかを接種済証などで確認できるようロット番号も公表。健康状態が悪化した場合には医師などに相談するよう呼び掛けている。

厚労省は、不足分は国内の在庫で対応する考え。国内の販売や流通を担う武田薬品工業は代替品供給に関し「接種への影響を最小限にするよう努める」と表明した。菅義偉首相は、都内の視察先で「大きな影響を与えるものではないとの報告を受けている」と語った。

混入は今月16日以降、茨城、埼玉、東京、岐阜、愛知の5都県にある職場接種や大規模接種会場で確認された。39本の瓶は、スペインにある工場で作られた同じロットの製品。製造ラインで混入が起きたと考えられ、異物は「黒い小さな物質」という情報が複数ある。厚労省幹部は金属片の可能性もあるとした。成分は不明で、モデルナが原因を調べている。海外ではゴム片が混入する事例が報告されているという。

厚労省は使用見合わせとしたワクチンの配布先への連絡や、代替品の配分に向けた調整などに追われた。文化庁は、文化芸術関係者を対象にした職場接種を中止。全日本空輸は、羽田空港での接種を26日と27日は見合わせると明らかにした。

使用見合わせとしたワクチンのロット番号は「3004667」（約57万回分）と「3004734」（約52万回分）、「3004956」（約54万回分）の三つ。

オンライン修学旅行が好評
広島、被爆3世が企画

【共同】全国の学校と被爆地・広島をオンラインでつなぎ、原爆ドームや平和記念公園を巡る平和学習ツアーが好評だ。新型コロナウイルスの感染拡大で広島への修学旅行が減る中、広島出身で被爆3世のウェブデザイナー久保田涼子さん（38）＝東京都＝は「ヒロシマに関心を持ってもらうきっかけになれば」と意気込む。

「私のおばあちゃんは20歳の時に原爆に遭いました」。7月中旬、原爆投下の目標となった広島市中心部の相生橋から、タブレット端末の画面越しに語り掛けた。相手は奈良県の小学校の5、6年生。秋に広島への修学旅行を計画しているが、実施できるか不透明なため、事前学習として依頼を受けた。

原爆資料館のピースボランティア西村宏子さん（63）＝広島市＝と、被爆3世の富永幸葵さん（24）＝東京都＝もガイドとして参加。クイズを出しながら、平和記念公園内にある慰霊碑や施設を約1時間かけて回った。終了後、児童は「自分の目でじっくり見てみたい」などと感想を語った。

久保田さんは2015年、戦争を知らない世代による歴史の継承をテーマに、東京在住のクリエイター仲間に呼び掛けて「第三世代が考えるヒロシマ『』継ぐ展」を設立した。東京で原爆がテーマの朗読劇に携わったのを機に「自分もヒロシマを伝えたい」と思うように。得意分野のウェブサイト作成など、できることを模索した。

ツアー企画は2年目に入り、今年秋は依頼が相次いでいるという。西村さんは「声が届かなかったり、列に遅れて説明を聞き逃したりなどの心配がない」とオンラインのメリットを語る。久保田さんは「いつか実際に現地に来て、学びがより深まるといい」と期待を込めた。

ラムダ株「隠蔽」批判
首相報告3週間後で野党

【共同】新型コロナウイルスの変異株で南米ペルー由来とされる「ラムダ株」の国内初感染に関し、厚生労働省から菅義偉首相や田村憲久厚労相への報告は判明から3週間後だったことが26日、参院厚労委員会の審議で明らかになった。判明したのは東京五輪開幕日の7月23日。感染者は五輪関係者でもあり、野党は「隠蔽だ」と批判。感染の事実も一部報道が出るまで明らかにしておらず、一連の政府対応の甘さも追及した。

ラムダ株はワクチンの効きが悪い恐れがあるとの指摘もあり、世界保健機関（WHO）が「注目すべき変異株」と分類している。

政府関係者によると、感染が確認されたのはペルーに滞在歴がある30代女性で、大会の許可証を所持していた。7月20日に羽田空港に到着。検疫の検査で陽性となり、同23日に国立感染症研究所がラムダ株と確認した。

8月26日の参院厚労委で、社民党の福島瑞穂党首が「日本にラムダ株が入ってきていることを知ったのはいつか」と質問。田村氏は「報道で知って事務方に確認し、8月16日に報告を受けた」と明らかにした。厚労省は、首相や加藤勝信官房長官への報告はその3日前だったと説明。大会は8日に閉幕している。

福島氏は、6日の一部報道まで感染者確認を明らかにしなかった点についても「国民への報告が遅い」と問題視。濃厚接触候補者の情報を大会組織委員会や自治体などに伝えていないミスもあり「五輪をしたからラムダ株が来たと大問題になるのを避けるため、隠蔽したのではないかと言わざるを得ない」と語気を強めた。

参院厚労委で答弁する田村厚労相＝26日午前（共同）

厚労省は20日から、空港検疫でラムダ株と確認された人については定期的に公表するよう見直している。

予防効果、半年以内に低減
英調査、3回目接種必要

【ロンドン共同】米ファイザーや英アストラゼネカの新型コロナウイルスワクチンを2回接種した場合でも、半年以内に感染予防効果が低減し始めるとの調査結果を英研究チームがまとめた。英メディアが25日伝えた。チーム関係者は、国内で早期に接種を終えた人の場合、冬までに50％未満まで低下する恐れがあるとし、3回目の追加接種が必要だと強調している。

調査結果によると、2回接種した人と、全く受けていない人計100万人以上を対象に、今年5～7月の間にPCR検査で陽性反応が出たかどうかを調査。ファイザーを投与された人は、2回目の接種から1カ月後の時点で88％だった予防効果が、5～6カ月後に74％に低下。アストラゼネカでは、1カ月後に77％だったのが4～5カ月後に67％に弱まっていた。

チームを率いる英キングス・カレッジ・ロンドンの疫学者ティム・スペクター教授は、BBC放送などに出演し、英国でワクチンを優先接種した高齢者や医療従事者らの感染予防効果が冬には50％未満に低下する恐れがあると指摘、「効果がゆっくり弱まるのを傍観している場合ではない」と警告した。

英メディアによると、接種を完了しても陽性になる可能性はあるが、重症化を防ぐ効果があるとされ、英当局はワクチンによって推計約8万5千人の死亡を防ぐことができたと分析している。

英国では昨年12月、日米欧でいち早く接種を開始。政府の諮問委員会が承認した場合、9月から3回目の投与を始める方向で準備している。

NPO職員本人も退避対象
アフガン人、家族は認めず

【カブール共同】アフガニスタンからの自衛隊機による退避対象に、日本の民間非営利団体（NPO）などのアフガン人職員も加わることが26日、団体関係者への取材で分かった。日本政府が家族帯同を認めないと説明したことも判明。イスラム主義組織タリバンの復権で身の危険を感じている人も多く、家族帯同を認めないことで人道に反するとの批判が出そうだ。

団体関係者は職員本人が対象に加わったことは「感謝している」としつつ、家族が帯同できないことで退避を諦めた人が複数いることも明らかにし「家族への支援も必要だ」と訴えている。退避の難しさが浮き彫りとなった。

団体関係者によると、日本政府は当初、大使館と国際協力機構（JICA）の職員らの退避を想定していた。しかし関係者らの強い要請を受け、日本のNPOや政府開発援助（ODA）事業に携わったアフガン人も加えることになった。

加藤勝信官房長官は23日、日本人以外の退避対象者について「大使館の職員をはじめとした関係者方の家族の輸送を念頭に置いている」と説明していた。外務省は25日、共同通信の取材に、NPOのアフガン人職員を対象に加えたことや家族帯同を認めないことについて「退避対象者の詳細や人数は公表していない」と回答を避けた。

団体関係者は、家族に説得されて退避を決心したアフガン人職員もいるが、1人で退避することになるため「泣きはらし、精神的に苦しんでいる」と話している。

タリバンはこれまでの記者会見などで国際支援団体などに融和姿勢を示している。しかし事務所がタリバンとみられるグループに荒らされたり、職員が嫌がらせされたりする例もあるという。

夏山終わり告げる火祭り
富士山麓、2年ぶり開催

富士山の夏山シーズンの終わりを告げる「吉田の火祭り」＝26日午後、山梨県富士吉田市（共同）

【共同】世界文化遺産・富士山の麓の山梨県富士吉田市で26日、夏山シーズンの終わりを告げる「吉田の火祭り」が始まった。毎年26、27日に開かれるが、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となり、2年ぶりの開催。露店の営業を見合わせ、一般客の来訪自粛を求めるなど、感染対策を講じた。

北口本宮冨士浅間神社に続く国道沿いでは、高さ3メートルほどのたいまつ約90本が並んだ。午後6時すぎ、順番に点火されたが、一般客の姿は少なく例年のようなにぎわいはなかった。

「吉田の火祭り」は富士山の噴火を鎮める祭りで、400年以上の歴史がある。「日本三奇祭」の一つとされ、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

障害は「人為的問題」
みずほ経営陣、社員に説明

【共同】みずほフィナンシャルグループ（FG）の経営陣らが社員に対して、みずほ銀行の店舗窓口で取引ができなくなった今年5回目のシステム障害を念頭に「人為的な問題がないわけではなかった」と説明し、保守や運用に改善の余地があるとの認識を示したことが26日、分かった。

障害が相次いだことを受け、25日午後にオンラインで社員向けの説明会を開いた。関係者によると参加した社員からは不安の声が上がった。みずほFGの坂井辰史社長は謝罪し、「不安の声や厳しい指摘も経営陣で受け止める」と述べ、原因究明を急ぐ考えを示した。

20日に表面化した今年5回目の障害はみずほ信託銀行でも起きた。基幹システムと営業店をつなぐ機器が19日夜に故障し、バックアップとして機能する複数の予備機も働かなかった。顧客へのホームページでの告知は20日午前8時半で開店の30分前だった。適切な対応だったか問う社員もおり、経営陣らは検証すると回答した。

みずほ銀では23日にも一部の現金自動預払機（ATM）が一時的に停止する障害が起きた。

競泳鈴木が『金』１号
日本勢２大会ぶり頂点

【共同】東京パラリンピック第3日の26日、競泳男子100メートル自由形（運動機能障害S4）の鈴木孝幸（34）＝ゴールドウイン＝が1分21秒58の大会新記録で制し、日本選手団の今大会、金メダル第1号に輝いた。日本勢が頂点に立つのは2012年ロンドン以来2大会ぶり。鈴木は3位だった25日の50メートル平泳ぎに続く表彰台となり、「金」は08年北京大会の50メートル平泳ぎ以来で通算7個目のメダル。

男子400メートル自由形（視覚障害S11）では富田宇宙（32）＝日体大大学院＝が銀メダルを獲得した。女子100メートル自由形（運動機能障害S5）で50歳の成田真由美（横浜サクラ）は予選落ちした。

車いすバスケットボールの1次リーグで、男子の日本は初戦でコロンビアに勝利。女子は英国を退けて2連勝とした。車いすラグビーの日本もデンマークを下して1次リーグ2連勝を飾った。

自転車の男子3000メートル個人追い抜きで運動機能障害C2の川本翔大（25）＝大和産業＝は3位決定戦に敗れてメダルを逃し4位。同C3の藤田征樹（36）＝藤建設＝は8位だった。

車いすフェンシング女子エペ個人（障害B）の桜井杏理（32）＝日阪製作所＝は準々決勝で敗れて6位。

卓球男子シングルス（立位9）1次リーグで日本選手団旗手の岩渕幸洋（26）＝協和キリン＝は敗れ、1勝2敗で敗退した。

男子100メートル自由形（運動機能障害S4）で優勝し、メダルを手にする鈴木孝幸。日本勢の金メダル第1号となった＝東京アクアティクスセンター（共同）

中国、靖国巡り反発強化
摩擦激化は回避か

【北京共同】中国が靖国神社を巡り日本への反発を強めている。昨年は終戦の日前後の閣僚参拝を批判する談話を公表しなかったが、今年は発表した。一方で、中国が外交ルートを通じ申し入れを行った日本側の相手は昨年より低位だったことも判明。摩擦の激化は避けたいもようだ。

「日本の政府要人が靖国神社を参拝し、軍国主義の間違った行動を美化した」。中国国防省の報道官は26日の記者会見で強く反発した。外務省も15日、菅義偉首相の玉串料奉納や複数の閣僚参拝は「侵略の歴史に対する誤った態度」だと主張する談話をホームページに載せた。

昨年、終戦の日の閣僚参拝は4年ぶりだったが、中国は談話を公開しなかった。今年発表した背景には、台湾を巡る日本へのいら立ちがある。中国が絶対に譲れない核心的利益と位置付ける台湾を巡り、日本が4月に米国との首脳会談で「台湾海峡の平和と安定の重要性」を確認し、関与の姿勢を見せたためだ。

中国国防省は岸信夫防衛相が参拝した8月13日に公表した談話で「（日本は）域外国と結託し中国を中傷した。完全に中国の内政である台湾問題に乱暴に介入した」とも非難した。

中国は日本に厳正な申し入れをしたと13、15両日に発表。複数の日中外交筋によると、昨年は駐中国大使に申し入れたが、今年は公使レベルだった。

中国政府系のシンクタンクは28日、日中関係構築をテーマにシンポジウムを開く。中国の日本研究者は米国と対立する中国が日本との関係を重視している表れだと分析。来年は日中国交正常化50年の節目でもあり「駐中国トップの大使に申し入れると今後のやりとりに響くと考えたのだろう」と指摘した。

セ（26日）	勝	敗	分	率	差
神	55	38	3	.591	
ル	49	36	11	.576	2.0
ク	46	34	10	.575	0.5
ヤ	36	48	13	.429	12.0
中	35	49	12	.417	1.0
広	34	49	10	.410	0.5

パ（26日）	勝	敗	分	率	差
ク	47	37	12	.560	
リ	45	39	13	.536	2.0
オ	42	38	14	.525	1.0
ロ	42	40	16	.512	1.0
ッ	37	44	16	.457	4.5
ッ	31	47	12	.397	4.5

JORNAL ニッケイ新聞 NIKKEY SHIMBUN
EDITORA JORNALÍSTICA UNIÃO NIKKEI LTDA.
Rua da Glória, 332, Liberdade,
Cep 01510-000, São Paulo – Sp, Brasil
TEL: (11) 3340-6060
Site: www.nikkeyshimbun.jp/
Facebook: www.facebook.com/NikkeyShimbun/
Diretor Presidente: Raul M. Takaki
Jornalista Responsável: Aldo Shiguti - MTb 36.982
Redator: Masayuki Fukasawa
記事に関するご意見
Redação: redacao@nikkeyshimbun.jp
配達・購読契約に関する連絡
Assinatura: nikkeyshimbun@yahoo.com.br
広告に関する連絡、問い合わせ
Publicidade: anuncio@nikkeyshimbun.jp
Periodicidade: Terça-feira à Sábado
Assinatura

	Anual	Semestral
WEB	R$ 1100,00	R$ 550,00
Impressa	R$ 900,00	R$ 480,00
Digital (PDF)	R$ 500,00	R$ 270,00

VENDA em BANCA

Nikkey Shimbun
ニッケイ新聞

ANO XXIV – Nº 5803 SÃO PAULO, SEXTA-FEIRA, 27 DE AGOSTO DE 2021 R$ 6,00

日本政府支援事業◆サンパウロ日伯援護協会◆コロナ感染防止キャンペーン

徹底した感染対策を現場で実践

サンパウロ日伯援護協会に聞く

傘下施設と友好病院の対応

2020年3月にブラジル国内で発生した新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）は、ブラジル日系社会をはじめ、ブラジル社会にも広く影響を及ぼし、医療・社会福祉サービスを提供しているサンパウロ日伯援護協会（援協、税田パウロ清七会長）の活動にも多大な負担を強いた。コロナ禍で厳しい状況に直面した援協では、徹底した予防対策により、日伯福祉援護協会傘下の各高齢者施設をはじめ、リベルダーデ医療センターおよび日伯友好病院等での感染拡大を防いでいる。一般向けの感染対策とコロナ禍で経験した事例などについて、前園マルセリーノ武弘事務局長と、同病院感染症専門医の田中アルナルド医師にそれぞれ話を聞いた。

田中アルナルド医師（提供写真）

リベルダーデ医療センター感染対策

援協ではパンデミック以降、ブラジル政府およびサンパウロ州政府が推奨する感染予防対策を実施している。各施設内でのマスクの着用、消毒液の設置・使用といった基本的措置をはじめ、外部から来る一般の人々への体温検査を義務付けし、エレベーター乗降時の人数制限や待合室でのソーシャル・ディスタンスを徹底。PCR検査（有料）も、日伯友好病院とリベルダーデ医療センターで常時、受け付けている。

また、リベルダーデ医療センター3階でのデイサービスセンター各種対面活動はすべて中止されている状況だが、料理教室等のオンライン発信イベントは随時、行われている。

傘下施設で直面した緊急事態

前園事務局長によると、2020年に援協で開催した対面でのイベントは、3月8日と同15日にスザノ・イペランジアホームで行われた「ダリア祭り」だけだったという。「確か、（20年）3月10日過ぎ頃にパンデミックとなり、ダリア祭りはスザノ市のカレンダー行事となっているため、開催するか否かをスザノ市の保健局長に相談に行きました。

その結果、当時は『まだ感染者もいない』との判断により、唯一開催することができました。ただ、コロナが心配で参加しない人には事前に購入していただいた会場までの往復バス代を返却することにし、例年より3割くらい参加者は減ったのですが、欠席者の多くの方々がそのバス代を援協に寄付して下さいました」と同事務局長は、それらの人々の厚意に感謝の気持ちを表す。

一方、同時期にサントス厚生ホームの入居者の1人が、新型コロナで重症化した後に亡くなるという悲しい出来事が発生した。感染経路は入居者の家族からで、最初に家族がコロナで死亡した後、感染した入居者も相次いで亡くなったという。「本当にショックでした」と前園事務局長が語る通り、事態を重く見た援協ではただちに他の入居者の家族との面会を謝絶し、ホームの建物全体を消毒。

施設入館の際には入口で消毒用マットを使用し、マスクの着用、検温を徹底させた。また、各施設の関連職員でも風邪の症状がある人には、2週間の自宅での隔離を実施するなどして、感染予防対策を行なった。

しかし、パンデミック発生当初は消毒用アルコールやマスクも不足している状況で、各高齢者施設にはとりあえず布マスクで対応した。当初、入居者の多くは普段はあまり使用したことがないマスクの着用を嫌がる傾向にあり、説得するのにも苦労した。

援協では、各施設への新たな入居希望者を断り、従来からの入居者の家族に対しても「一番安全なのは自宅に居ることでは」と希望者には一時的に自宅に戻ってもらうことも提案したが、コロナ禍の中で自宅に連れて帰る家族は1人もいなかったという。

その後は入居者や職員で一人の死者も出さず

こうした対策が実を結び、他の施設の入居者でコロナの陽性反応者は若干名あったものの、コロナによる死亡者はその後、職員も含めて1人も出ていない。今年1月、2月には各施設の入居者と職員全員にワクチン接種を済ませたこともあり、コロナに感染しても重症化する人はほとんどいなくなった。

そのほか、パンデミック当初はオンラインのみで行なっていた本部での役員会も、昨年終わり頃からオンラインと対面での併用開催で実施できるようになった。また、今年6月頃からサントス厚生ホームとイペランジアホームに限り、医師の判断を仰いだ上で少しずつ新たな入居希望者も受け入れるようになるまで事態は緩和されてきたという。

前園事務局長は「最初の頃は入居者や職員の中でも『いつ、自分が感染するかもしれない』という恐怖心があり、今まで経験したことがない事態の中で何が正しいのかが分からない状況でした」とし、「そうした中で、各職員やスタッフの方々には本当によくやっていただいた」と、現時点までの感染対策の取り組みを振り返った。

特に徹底した日伯友好病院の感染対策

270床の病床数を有する日伯友好病院でもリベルダーデ医療センター同様、政府機関の推奨に応じた感染予防対策を実施。病院内での医師や看護師などの医療スタッフのほか、職員にもアルコール消毒を徹底させており、特に食堂では食事やコーヒー休憩の際の人数制限を2人までとする措置を取っている。

田中医師によると、パンデミック発生から今年8月現在までの約1年半の期間で、同病院へのコロナ患者入院総数は3723人。回復者数も3506人と多いが、死亡者数は196人となっている。ブラジル国内の感染第2波の影響でピークとなった今年3月9日には、一日に460人のコロナ感染者とコロナ感染疑いのある患者を受け入れたという。

同病院ではパンデミック以降、感染症専門医をはじめ、肺炎専門医、内科やリハビリ担当医など10人ほどで構成される「コロナ対策専門チーム」を結成。また、UTI（ICU、集中治療室）にも5、6人の専門医が常時、交代で勤務しており、感染患者数の増減に合わせて対応している。その結果、今年8月13日現在で同病院に入院している患者数は21人まで減少し、UTIにはその半数の10人ほどの患者のみとなっている。

同病院ではコロナ患者については、家族などの付き添いは一切禁止しており、それ以外の患者については付き添いこそ許されるものの、付き添いの交代は1回限りに制限しているという。さらに、医師が装着するマスクに関しては、コロナ患者に対しては「N95微粒子用マスク」を使用。それ以外は従来の手術用マスクを適用している。

田中医師は、コロナ禍での良い意味での教訓として特に、消毒液の一般使用の習慣化を挙げる。「（2016年に）豚インフルエンザが流行した際、消毒液の使用が一般にも広がったようだが、その後、その意識も薄まりつつあった。昨年からの新型コロナウイルスの蔓延により、消毒液の使用がまた、一般にもかなり広がった。一番重要なのはコロナウイルスを他人にうつさないことで、そのためにはマスクの使用やワクチン接種とともに、必要以外に外出しないことが大切」と強調した。

軽視できないコロナの症状

新型コロナウイルスについて田中医師は「個人的な見解」としつつも、「このウイルスは特に咳が激しくなったり、呼吸器系の症状が特徴だが、すぐに症状がおさまっても再発することが多く、決して症状を軽く見ないほうがいい」と呼びかける。

ブラジル国内では現在、ガンマ株（ブラジル株）の発症者が多数を占め、インド由来のデルタ株の症状も少しずつ増加している。隣国ペルー由来の「ラムダ株」について田中医師は「まだ、政府発表の注意報には示されていない」状況だというが、いつコロナ禍が収束するかは未だ分からないのが現状だ。そうした中、一般家庭で各個人ができる感染対策として、帰宅時の「うがい」や「手洗い」、消毒液による洗浄など基本的な自己防衛措置が重要視されている。

リベルダーデ医療センター待合室でのソーシャル・ディスタンス（提供写真）

リベルダーデ医療センター受付に設置されている消毒液（提供写真）

徹底させている手洗いや消毒液の使用（提供写真）

PCR検査

常時、受け付けているPCR検査（提供写真）

感染力が強い変異株にご注意ください!!

2021年版

ゼロ密を目指そう!
～一つの密でも避けましょう～

密接しない
密集しない
密閉しない

人と会うときは
- 人と十分な距離を保つ！
- 混雑している場所や時間を避ける！
- オンラインの利用や時差出勤を！
- 屋外でも密接、密集を避ける！

飲食するときは
- 少人数・短時間で、大声は避けて！
- ガイドラインを守ったお店で！（アクリル板の設置、消毒、換気の徹底など）
- テイクアウトやデリバリーも！

ポイント 会話時はマスクを着用

※体調不良時の出勤・登校などはお控えください。

首相官邸 Prime Minister's Office of Japan　厚生労働省　内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策推進室　新型コロナウイルス感染症対策▶（新型コロナウイルス感染症対策推進室HP）

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室特設サイト（https://corona.go.jp/proposal/）より転載

本記事は、日本政府支援事業に基づき、サンパウロ日伯援護協会が実施している「コロナ感染防止キャンペーン」の一環です。